

別 紙

第59回 静岡県公衆衛生研究会 優秀演題ホームページ掲載要旨

分 科 会 名	第 2 分科会	演題番号	205
題 名	浜松市の1歳6か月児健診における初期う蝕と母親の精神状態の関連について		
所 属	浜松市天竜区健康づくり課 <sup>1)</sup> 東区健康づくり課 <sup>2)</sup> 西区健康づくり課 <sup>3)</sup> 浜松医科大学健康社会医学講座 <sup>4)</sup>		
氏 名	稲葉莉帆 <sup>1)</sup> 河合彩那 <sup>2)</sup> 早瀬綾香 <sup>3)</sup> 後藤希 <sup>3)</sup> 尾島俊之 <sup>4)</sup>		
要 旨 (簡 潔 に)	<p>母親の精神状態と児のう蝕の関連性について明らかにするため、1歳6か月児健診を受診した幼児を対象とし、児の初期う蝕有病者数と母親の精神状態、う蝕罹患に関与すると思われる項目を選定し分析を行った。</p> <p>その結果、母親の精神状態不調群では、児の初期う蝕有病率が1.61倍高い傾向にあった。また、母親の精神状態に関わりがある項目は、「間食を摂る時間を決めていない」「歯磨きを子どものみで磨く又は磨かない」「哺乳瓶を使用する」であり、う蝕リスクの高い生活習慣や保健行動をとっていることが示唆された。</p> <p>以上より、母親の精神状態について既存の保健事業の中でフォローする機会を増やし、情報通信技術等を活用しながら、多職種で連携してすべての母子に寄り添った支援を実施していく必要がある。</p>		